

大学図書館の可能性

牛崎 進（中京大学非常勤講師）

1 大学の経営環境

大学は厳しい経営環境にある。その要因は以下のようなものだ。

・外的要因

少子化・・・・・・・・入試広報強化、留学生確保、小中高の系列化、エクステンション
大学間競争・・・・・・・・差別化要素の強化（学費減免や奨学金充実など）、外部評価

・内的要因

教育の質保証・・・・・・・・カリキュラム改革、授業評価、学習支援整備、キャリア教育、情報公開
財政改革・・・・・・・・経費削減、増収策の模索
人事政策・・・・・・・・職員の減員、業務のアウトソーシング
外部から数値データで評価される入口（入試、広報）と出口（キャリアセンター）に関する業務の再編・強化

2 大学図書館をめぐる課題と対策

（1）大学経営環境から下りている顕著な現象

- ・図書費の抑制ないしは削減および運営費の圧縮
- ・職員数の減少、職員の能力アップ施策、アウトソーシングの利用
- ・専門職制度の衰退の結果、業務継承や人材育成に不透明感
- ・ネット環境における情報探索行動の多様化に対応できる図書館サービスの模索
学習支援（ラーニングコモンズなど）環境の整備もこれに含まれる。

上記の内、最初の3件は職員の内向き思考を招いており、かつてのような他大学図書館との協力事業に取り組む積極性は下火となっている。大学職員業務の中で、大学間で最も標準化された業務やサービスをしている図書館の職員が内向き思考のまま推移すれば、大学図書館の発展や大学図書館界の将来展望が描けなくなるおそれがある。

この内向き思考は、図書館に限らず大学界全体の現象のように見える。日本の大学や大学図書館のプレゼンスが護送船団方式で停滞しかねない。

（2）課題への対策

- ・図書館間協力、コンソーシアム

図書館間協力やコンソーシアム活動は、図書館業務・サービスの標準度の高さから見れば、その到達点は多様性にみちている。その実現のためには、学生に対する学習支援をどう設計したいのかの政策判断が必要であり、前述の内向き思考では限界があると言わねばならない。

(事例) [大学図書館コンソーシアム連合 \(JUSTICE\)](#)
[早慶で共同の図書館システムを構築](#)

- ・職員の育成

教育サービス産業は、サービスの仕掛けも重要だが、これを動かす職員の企画力、交渉力、経営力（私大連ではこれをアドミニストレーターとして育成研修をしている）がポイントとなる。大学図書館サービスは成果が見えにくいいため派手さはないが、学習支援を強化している今日の大学にあっては、これを担える図書館職員の育成は極めて重要な政策判断となるはずである。

- ・情報リテラシー教育のシステム化

さまざまな取り組みが進行中だ。ポイントは、図書館のプログラムとしてのみ提供する限界を突破できるかどうかだろう。学生は、図書館の情報リテラシー教育を応用する実践の場を授業と連動して持てないでいる。改善のためには、図書館が協力して学部や教員に要請し続ける必要がある。

3 大学図書館の可能性

学生の関心や不安の種は何なのだろう。大学は何を改善すれば彼らの満足度を上げられるのか。例えば、サークルでの人間関係、就職準備、自分探し、教養アップ、アルバイト等生活費の確保、キャンパスでの居心地、友人作り、言語運用力のアップ、等々。

上記の関心や不安の種に図書館がどう関わり得るのか、という疑問が湧くかも知れない。大学図書館のそもそもの使命は、蔵書や電子情報（電子ブックや電子ジャーナル、新聞等のデータベース）を利用者に提供し、保存することだという正論である。

しかし、最近のコミュニティセンター内に配置された公共図書館が、そのサービスメニューの斬新さもあって好評である事実は、大学図書館もラーニング commons の設置に留まらず、何事か（何事でも）を成しうる可能性を示唆している。

上述のように大学および大学図書館の厳しい経営環境は、発想を変えれば、新たな企画を待望するチャレンジングな世界にいるとも言える。これに挑むには次の諸点が留意項目だろう。

(1) 大学のミッション、ビジョンを常に意識すること

挑戦のヒントが、ミッションやビジョンに潜んでいる。

(2) マーケットを知ること

学生の学習環境や生活環境を把握し、彼らのニーズを捉えた上で企画すること。

(3) 着手点

コストがあまりかからないところから着手し、一定の評価（評判）を得てから次の作戦に本格投入する。予算や要員の確保は至難であるが、大学執行部がこの作戦に前向きに乗り出せる状況を用意することが大切だろう。

(4) 広報

改善できたこと、好評を得ていることは大学や理事会の経営層そして広報担当にしっかり広報すること。これは受験生や高校の進路指導、そして卒業生へのアピールにもなる。

最後に、職員みなさんにエールを送りたい。

・何かを成し遂げるには、学生の成長を支援したいという熱いパッションが原点です。この支援を担うことで職員として成長できることを楽しんでほしい。

・昨年、授業を担当していた科目の学生が、大量にネット情報が溢れて情報の取捨が困難な今日、先生は（紙媒体のみだった）昔と今を比べてどちらがよかったですか、と質問してきました。私のコメントは‘いつでも今です’というものでした。

のんびりとした職員人生はすっかり過去のものですが、それでも今が面白い時代だと言い切ることができます。

以上